

前橋汀子

ヴァイオリン・
スペシャル・コンサート

[ヴァイオリン] 前橋汀子

オーケストラとともに贈るリサイタル



[管弦楽] 日本センチュリー交響楽団



[指揮] キンボー・イシイ

ブラームス: ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.77

メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64

サン＝サーンス: 序奏とロンド・カプリチオーソ op.28

2025 **11/23** (日・祝) 14:00開演 (13:00開場)

全席指定 S 7,700円 A 6,600円 B 5,500円 (税込)

ご予約・お問合せ ■ ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (火曜定休) <https://www.symphonycity.jp>

プレイガイド

■ e+ (イープラス) <https://eplus.jp/symphonycity> (パソコン・携帯)
■ ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonycity> [Lコード: 55050]
■ チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonycity/> [Pコード: 296-032]

ザ・シンフォニーホール

主催: ザ・シンフォニーホール

詳しい内容はこちら▶



*未就学児のご入場はご遠慮いただいております。*やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。*公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承ください。

前橋 汀子

ヴァイオリン・スペシャル・コンサート

前橋汀子が今年もザ・シンフォニーホールに帰ってくる!しかも今回は、ブラームスとメンデルスゾーンという二大ヴァイオリン協奏曲を携えて。ブラームスのヴァイオリン協奏曲だけでも、ヴァイオリニストにとってはかなりヘビーな作品であるが、その上、名曲中の名曲であるメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲も弾くとは!それに加えて前橋の十八番であるサン＝サーンスの「序奏とロンド・カプリチオーソ」まで演奏される!!若き日に旧ソ連レニングラード音楽院に留学し、スイスでは巨匠ヨゼフ・シゲティに学び、国際的に活躍。3年前に演奏活動60周年記念演奏会をザ・シンフォニーホールでひらいたレジェンドは、ますます深化し、ますます精力的である。

山田治生

前橋 汀子 [ヴァイオリン] Teiko Maehashi, Violin

日本を代表する国際的ヴァイオリニストとして、その優雅さと円熟味に溢れる演奏で、多くの聴衆を魅了してやまない。5歳から小野アンナにヴァイオリンを学び、その後、桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校で斎藤秀雄、ジャンヌ・イスナールに師事。17歳で旧ソ連国立レニングラード音楽院(現サンクトペテルブルク音楽院)日本人初の留学生に選ばれ、ミハイル・ヴァイマンのもとで学んだ。その後、ニューヨーク・ジュリアード音楽院でロバート・マン、ドロシー・ディレイ、スイスでヨーゼフ・シゲティ、ナタン・ミルシテインの薫陶を受けた。

これまでにベルリン・フィル、ロイヤル・フィル、フランス国立管などの名楽団、メータ、ロストロポーヴィチ、小澤征爾など世界の一流で活躍するアーティストとの共演を重ねている。

近年、小品を中心とした親しみやすいプログラムによるリサイタルを全国各地で展開。一方、J.S.バッハの「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ&パルティータ」、ベートーヴェン「ヴァイオリン・ソナタ」、ブラームス「ヴァイオリン・ソナタ」などにも意欲的に取り組んでいる。

また、最新録音として、ベートーヴェン「ヴァイオリン・ソナタ全集」のCDが2025年2月12日にソニーミュージックより発売。著書『私のヴァイオリン 前橋汀子回想録』が早川書房より、最新刊『ヴァイオリニストの第五楽章』が日本経済新聞出版より出版されている。

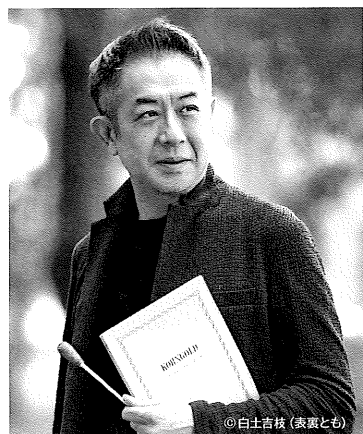
これまでに日本芸術院賞、第37回エクソンモービル(現・ENEOS音楽賞)音楽賞洋楽部門本賞受賞。紫綬褒章、旭日小綬章を受章。

使用楽器は1736年製作のデル・ジェス・ガールネリウス。



© 岡本隆史 (表裏とも)

キンボー・イシイ [指揮] Kimbo Ishii, Conductor



© 白土吉枝 (表裏とも)

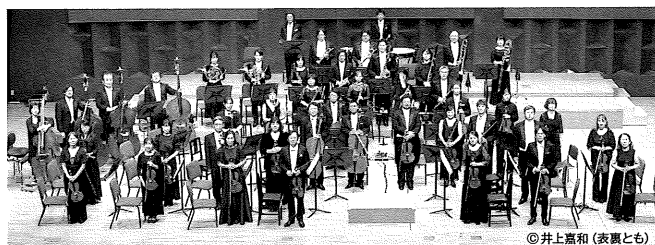
ベルリン・コミッシェ・オーパーの首席カペルマイスターを経て、マクデブルク劇場音楽総監督、大阪交響楽団首席客演指揮者、ドイツ・シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州立劇場音楽総監督などを歴任。近年は日本国内でも精力的に活動中。

NHK交響楽団との共演をはじめ、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、京都市交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、九州交響楽団などの主催公演で指揮。また、日本でのオペラ活動としては、びわ湖ホールのオペラビエンナーレ『フィガロの結婚』、関西二期会『魔弾の射手』がある。

12歳で渡欧し、ウィーン市立音楽院にてヴァイオリンをワルター・バリリ、ピアノをゲトルド・クーバセックに師事。その後、ジュリアード音楽院にてヴァイオリンをドロシー・ディレイに学び、1992年に指揮に転向。1993年と1995年のタングルウッド音楽祭に奨学生として参加。指揮を小澤征爾、サイモン・ラトルをはじめとする著名な指揮者に師事。その後、ボストン交響楽団とニューヨーク・フィルの同時契約副指揮者として、小澤征爾氏をはじめ、サイモン・ラトル、ベルナルド・ハイティンク、アンドレ・プレヴィン等各氏のアシスタントを務めた。

1995年にはニコライ・マルコ国際指揮者コンクール(デンマーク)で入賞。2010年には「第9回斎藤秀雄メモリアル基金賞」指揮者部門を受賞。

日本センチュリー交響楽団 街に響く。心に届く。[管弦楽] Japan Century Symphony Orchestra



© 井上高和 (表裏とも)

1989年に活動を開始し、大阪府・豊中市を拠点に活動するオーケストラ。

2025年4月より、久石譲が音楽監督に就任。ザ・シンフォニーホールで開催するシンフォニー定期演奏会、豊中市立文化芸術センターでの名曲シリーズを展開している。飯森範親マエストロと10年に及んだハイドンの交響曲全曲演奏&録音プロジェクトの「ハイドン交響曲集」等がレコード芸術誌特選盤に選ばれる等、高水準な演奏が評価されている。2024年12月に楽団創立35周年を迎えた。

オフィシャル・ホームページ <https://www.jcso.or.jp>